

「資料1」 を読んで

高校生の頃までは横手にいることが当たり前で、横手の魅力についてあまり考えたことがなかったように思う。今は一人暮らしをしているが、地元に戻ると高校生の時には当たり前だった風景や料理に魅力を感じたりすることも多い。今回の資料の阿部さんのように地元に戻って何かをやりたいと思っても一人では限界がある。周りに協力してくれる人や自分のやりたいことに同意してくれる人がいたということはとても心強かったと思う。挑戦する人たちを後押しし、支えていくことで横手の魅力を伝える機会が増え、地域の活性化にもつながっていくのではないかと感じた。

私はこの資料の見出しに書かれていた「否定せず背中を押してくれた。」という言葉に心を打たれた。

ゲストハウス&バー「カモシバ」を起業した阿部円香さんは、自身の大学時代の経験から人と人との交流の場を作りたいと考えるようになった。そこから地域の方々と繋がり支援先も見つけ、カモシバの創設や新商品の開発など多岐に渡る活動を行なっている。何よりも私が感動したのは、阿部さんの意見に賛同する人たちが周りに多くいたことだ。一から起業することはリスクを伴う。そこに協力してくれる人の存在が何よりも大切である。

私も自分の考えを肯定してくれる人の存在の大切さを自覚し積極的に行動していきたい。

少子化が進行する秋田の中で若者の活動を支援することは、若者が秋田に魅力を感じる要素の中で重要と言える。長年に渡って受け継がれてきた蔵を譲る際に、企業を応援してくれた大家さんや父の援助のもと入居できていることから、人含む周囲の環境に恵まれていることがうかがえた。加えて交流サイトを通じて募った有志と人とともに造り上げた理想的な空間は、多くの人から愛される空間になるだろう。また秋田のりんごから着想したハードサイダーを知るべく米国での研修に挑む姿勢は、自分のやりたいことに真摯に向き合う若者の姿であり、周囲の支援や期待に応えるためのあるべき姿でもあったと考えられた。背中を押されることすなわち活動を支援してもらえということは、自分の夢を実現させたいという気持ちに加え、自分を支えてくれている人の気持ちや期待を裏切ってはならないため、支援を受ける際には相応の努力を約束しなければならないだろうと考える。

私は、横手市十文字町に地元に戻り起業した若い女性がいることを初めて知った。横手の果物や野菜といった豊かな恵みを活かしたハードサイダーも魅力的だと思った。

秋田県は人口減少率が全国一位であり、若者の県外流出も問題となっている。このような状況のなか、SNS や県の若者チャレンジ応援事業を積極的に活用しながら起業し、地元へ貢献する姿は今後のロールモデルになると思う。また、地元には希望する雇用機会がなく賃金水準も低いという若者に対しても、地元で起業するという選択肢を与え、地域が一体となってバックアップしていく姿勢をアピールすれば、阿部さんのような起業家もうまれ、地域が活性化するのではないかと思った。

資料を読んで、阿部円香さんの発想力や行動力に感銘を受けました。地元のために、今までにない新たな取り組みでありながら、物怖じせず前向きに捉える姿勢が伝わってきました。さらに環境に恵まれているのは、円香さんの人格に魅力があるからだと思いました。現代の流れに合わせて SNS などで発信し、海外での経験を活かし、若い世代だからこそ考えられる挑戦であると思いました。私ももっと視野を広げて、自分の良さを生かすように、将来では社会に貢献したいと思いました。また、勉強できつい時、友人たちに支えられて乗り越えた経験がフラッシュバックしました。恵まれていることに感謝し、失敗に怯えず、沢山挑戦していきたいです。

阿部円香さんの「カモシバ」での取り組みについての記事を読んで、私は、地域の若い世代に環境を楽しむ姿や面白い姿を通して地域の面白さを伝えたいということがとても印象に残った。さらに、横手市のマルシメ社長の遠藤さんの若い人の可能性を信じた後押しのお気持ちに強く惹かれた。ゲストハウス兼バーということでこのカモシバを拠点に地域の方と交流できたり、十文字の食文化を堪能してもらったりできたら、観光する以上に魅力を伝えることができると感じた。大正時代からの築 100 年の土蔵ということで、地域の資源の利活用により、伝統を感じつつ、阿部さんと松橋さんの人柄も感じることもとても良い取り組みだと感じたのでぜひ行ってみたいと思う。

私は、阿部さんは自分がやってみたい、こうした方が良いことを進んで行う行動力がある人だと感じました。理由は、横手のリングでアルコール飲料（お酒）を造るために、実際に「ハードサイダー」を作るための発酵技術を米国に学びに行き、実際にアルコール飲料を製造して販売しているところに地元のために行動力を発揮していると感じたからです。また、地元を良くするためのアイデアを考え出し、仲間を募り、実践しているところが非常に素晴らしいと感じました。自分は将来、システムエンジニアやプログラマーになるために、大学の授業に日々、励んでいるのですが、阿部さんのような「こうした方が良い」、「このような物が作れないかな」といったアイデアを膨らませる思考力や、実際に行動に移せる行動力が

必要不可欠なので、阿部さんのように、考えられるような人材になりたいと感じました。

資料から、阿部さんがたくさんの人たちからの支援を受けて作り上げた『カモシバ』は地元住民たちの憩いの場であり、様々な人たちと出会うことができる交流の場であることがわかりました。私も大学を卒業したら横手に戻りたいと考えています。大学に通うために地元を離れて一人暮らしをしているのですが、毎日のように早く実家に帰りたいと思いながら生活しています。大好きな地元で、阿部さんのようにたくさんの人たちとのつながりを大切にしながら、地域の人たちのためになる仕事をしたいと考えています。大学を卒業したら、栄養教諭として子どもたちに地元の食材をふんだんに使用した給食を提供して、地元の良さをよく知ってもらいたいと思っています。そのために大学生活の残り2年半、これまで以上に勉学に励みたいと思います。

この資料を読んで真っ先に感じたことは、横手には魅力的な食文化や歴史が豊富であることと横手の人たちが持つ行動力や温かさです。私は、阿部さんの横手の食文化と歴史に魅せられて、それらを若者に知ってもらいたいという思いから経営者の方々や SNS などの支援を通してゲストハウスをつくり、さらにゲストハウスの事業に醸造事業を加えた株式会社を設立するという行動力にとりわけ感心しました。また、こういった思いのある人に対して惜しみなく支援をして下さる方が多く存在するということにも横手の人の温かさが垣間見えました。改めて横手には地元を大切にし、それを発信したいという人とその人を全力で支えたいという人で溢れている地域だということ再認識できました。

自分自身のやりたいことや、ひらめきを実現するのはとても困難なことだと思う。記事にあるカモシバの経営者の阿部さんは、大学時代にやってみたくと思ったことを実現しさらにリンゴを食べたことでひらめいたお酒造りも実現している。その実現には SNS で募った有志や友人、地元の人など多くの人に関わっている。人が一人でできることは本当に限られていて、周りの人のサポートは非常に大きな存在になってくる。しかし、そのサポートを得るには、自分が動き回り発信していくことが重要になってくると思う。その上で自分の背中を押してくれる存在に出会えたら、本当に心強いと思う。自分がやりたいこと、実現したいことを見つけたら信念をもって行動し、志をともにする仲間を募るために奮闘していきたいとこの記事を読んで思った。

海外の文化などを取り入れるだけでなく、横手の食べ物や文化と絡めて独自の文化とし

で発展させていこうと積極的な商品開発などを行っている阿部さんの行動力を目標にしていきたいと考えた。

地元貢献したいからといって地元だけを見ているのでは視野が狭くなってしまう。阿部さんの話からも異文化に触れた経験が今に生きていることが感じ取れた。秋田に良い影響をもたらせるようになるために様々な価値観や文化を学んでいくことを今後努力していきたい。

秋田県では特に若い人の人口流出が激しく、仲間となる同年代が少ないため新しいことに挑戦するのは難しいと勝手に決めつけていた節があったが、SNS が普及している現代では全国に募集をかけることができるというのが盲点だった。連絡ツールとして使いがちなスマートフォンを有効活用していくことも今後の自分の課題であると感じた。

自分のやりたいことを実現した上に、地元の産物を使用して地域に貢献することができていることに感銘を受けた。地域の方々の応援により自分の最大限の力を出すことができる。そんな横手市にいれることが幸せだ。地域の歴史ある建物で横手の自慢できるものを使って様々な商品を開発していくことで、地域の PR にもなるだろう。秋田県は少子高齢化により、高齢者が多く、若者の県外への転出率も多い。人口減少が進む中、若年世代が地域の活性化に積極的に取り組むべきだ。私も以前、横手市の発酵食品料理コンテストで横手市から賞をいただき、発酵食品と食文化について学んだ。横手市の活性化に向けて、今まで学んだことを生かし、今後も自分のできることを積極的に行い、地域に貢献していきたい。

私は、地域の活性化に尽力する若者に周囲の人々が力を貸し、皆で地域を盛り上げていくことが、今後の地域社会を支える鍵になると考える。

人々が交流する環境づくりに取り組む阿部さんは、挑戦を後押しされたことで、地域貢献活動を成功させ、地域の良さに気づくことができた。一方、阿部さんを応援した周囲の人々は、社会で期待されている若者の力を十分に発揮させ、地域の温かな居場所を作り上げた。すなわち、相互関係にある両者が一体となって地域の活性化に尽力していると解釈することができる。

以上のように、私は、今後横手市の活性化を図る上で、若者と地域の人々が互いの力を引き出し、同じ目的に向かって行動することができる環境づくりを推進することが重要であると考える。

この記事を読んで最も印象的だったのは阿部円香さんの行動力です。大学時代、休みのたびに海外のゲストハウスに滞在していたこと、地元産のリンゴでお酒を造るため米国を訪

ね、ゲストハウス事業と醸造事業に取り組む株式会社「空」を立ち上げたことはすべて阿部さんの行動力によって得られたものだと思います。友人でもあり経営パートナーでもある松橋さんや、同郷で「空」にも出資し、地域の先輩として応援してくれる遠藤さんなど、阿部さんの周りに挑戦を応援してくれる多くの人がいるのは、阿部さんが理想を語るばかりではなく実際に自分で行動してチャンスをものにしているからだと感じました。私は、まだまだ行動力が足りていないと感じたので少しでも興味があることには積極的に取り組み、これからの自分の力にしていきたいと思います。